

Vories
cure&care



ヴォーリス
だより

発行 毎月 1日
発行者
ヴォーリス記念病院
周防正史
近江八幡市北之庄町492
TEL (0748) 32-5211
印刷
(有)東呉竹堂(ひがし印刷)

病院ホームページアドレス
<http://www.vories.or.jp/>

2013年(平成25年)8月1日 第74号

これからの在宅医療推進に向けて

在宅サービス部門長

(訪問看護ステーションヴォーリス所長 兼務) 向 美 保



暑中お見舞い申し上げます。

今年の夏は、例年以上の猛暑にみまわれると予想されています。この時期、毎年のように「熱中症」の方が増え、当院外来でも点滴での水分補給をせざるを得ない方があとを絶ちません。

私ども「在宅サービス部門」でも在宅でのその人らしい生活を支援すべく日々奮闘しておりますが、猛暑の中での療養されている方々やご家族はもっとたいへんな思いをされていると思います。医療機関での「急性期医療」から「回復期」「慢性期」と早い展開がなされ、入院期間も短縮されてきています。

その中で、「我が家」に帰っていただく方が多くなっています。「暑い間は、冷房の効いた病院に居させてほしい。」と願われる方も少なくありません。しかしながら、病院では治療を必要とされる方のベッドを確保していかなければならないのが現状です。

超高齢化多死時代を迎えるに際し、少子化でもある「若い働き手」が少ない中、新しく病院が増える訳でもなく、「治療」を終えた方々はご自宅へと療養場所を選択せざるを得ないのです。

私ども「在宅サービス部門(訪問看護・ヘルパー・居宅)」も人材の補充が毎年の課題で、皆様のニーズに十分応えられていない状況が続いています。地域の方々が安心して、できる限り「我が家」で暮らしていただけるよう、関係職種と連携し、支援させていただきたいと思っております。

遅くなりましたが、昨年度の事業実績として「在宅サービス部門」全体の経常利益が約18,000千円となりました。ヴォーリス氏のキリスト教の基本理念に沿うよう職員一同の努力を地域の皆様にご理解いただきました結果だと感謝しております。

訪問看護では、昨年度16名の方を在宅で看取らせていただきました。現在120名余りの利用者様に訪問させていただいておりますが、医療保険：介護保険の方が4：6と医療依存度の高い方が増えているのが現状です。県内初めての「在宅看護専門看護師」を含む12名の看護師で24時間対応の運営をしております。月750件前後の訪問をし、皆様に安心の提供ができるようにと努めています。

ヘルパーステーションは、介護福祉士2名が「痰の吸引等の手技取得」をし、その登録事業所としても先月より稼働しています。訪問看護と連携し、痰の吸引や注入の手技ができる事業所としては市内で初めてとなります。他に11名の職員で対応させていただいております。

居宅介護支援事業所は、今年度は1名増員で5名の職員で対応させていただいており、医療依存度の高い方をはじめ、認知症など様々なご病気の方も担当させていただいております。在宅になかなか帰れなかった方へもケアプランの充実と他職種との連携、そしてご家族への支援で、「在宅療養生活の継続」ができるようになりました。

病院の正面右手に現在リハビリセンター(仮)が建設中です。1階には、私ども「在宅サービス部門」と「託児所」が予定されています。地域の方をはじめ、利用者様やご家族様が気軽に相談に来訪していただけるように距離を近くし、ご助言・ご指導にも努めていきたいと考えております。

まだまだ暑い日が続きますが、十分に水分を摂っていただき、休息と栄養補給にも努めていただきますようよろしくお願いいたします。

敷地内全面禁煙です。

皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

健康について

1 病棟 田中 理子



私の家では、健康のため主食に麦ごはんを食べています。麦ごはんを使う裸大麦は、昔から押し麦としてお米に混ぜて食べられていました。そんな大麦には、ビタミンB1やナイアシンなどのビタミン、銅などのミネラル、食物繊維などの栄養素が多く含まれています。

まず、ビタミンB1は糖質をエネルギーに変えるためには欠かせない栄養素です。皮膚、粘膜の健康を保ち、免疫力を高める効果もあります。このビタミンB1の欠乏症には、食欲不振や倦怠感、むくみ、疲労などがあります。次にナイアシンは、糖質や脂質をエネルギーに変えるための栄養素です。血液の流れをよくしてくれるので皮膚の細胞まで栄養が行

き届き、肌の新陳代謝も活性化してくれます。さらに、お酒を飲むとアセトアルデヒドという物質が作り出され、頭痛や吐き気などの原因となります。ナイアシンは、そんなアセトアルデヒドを分解してくれるので、二日酔いなどの防止にもなります。次に銅は、血管や骨を強くし、貧血を予防してくれます。最後に食物繊維は、便秘の解消、脂質の代謝を調節して動脈硬化を予防、食後の血糖値が急に上昇するのを抑えるので糖尿病の予防にもなります。

このように大麦には、人の身体にとって必要な栄養素がしっかりと含まれています。ぜひ皆さんも食べてみてください。

在宅サービス部門だより

私が入職してから感じたこと

ヴォーリズ居宅介護支援事業所 主任 笹原 智栄



私がヴォーリズ居宅介護支援事業所に入職してから早や3ヶ月が過ぎました。新しい職場への期待と不安いっぱい新人研修を受けたのが、つい昨日のこの様です。

職場についてから、自分が今までやってきた仕事と同じ内容の仕事を行うとはいえ、それまで働いてきた地域との違いや環境の変化によって地に足がつかない緊張の日々を過ごし、先輩方にいろいろご心配・ご迷惑をかけてしまいました。

業務が始まってから日々、様々な環境・身体状態におかれた要支援・要介護者の方々と出会い、いろいろお話を一緒に困ったり、共感したりしながらケアプラン作成するという自分自身の業務を遂行する中で、皆さんの笑顔や「いつもありがとうございます」などの言葉をかけていただけたりで、

自分自身がこんなに助けてもらったような感覚を感じたことがなく、感謝の気持ちを感じながら日々業務にあたらせていただいています。

日々の忙しさの中で、もう自分は仕事を続けることが難しいのではないかと感じた時期もありましたが、周りの先輩方の励ましをいただき、少しずつ落ち着いた気持ちで毎日を過ごせるようになってきました。

今後もいろいろと壁にぶつかることもあると思いますが、先輩方に相談しながら、また自分自身でもより良い解決ができるよう努力し、ヴォーリズ居宅介護支援事業所の一員としてやっていければと思っています。



お薬三二知識(第2回)

お薬情報



子宮頸がん予防ワクチンについて

ヴォーリズ記念病院 薬局 古武 まゆみ

子宮頸がんは、日本では年間約9,000人が発症し約2,700人が不幸にして亡くなっている病気です。また、子宮頸がんは若い女性から年齢の高い女性まで全ての年代の女性が罹患する可能性があります。近年20～30代で急増しています。子宮頸がんは発がん性が高いヒトパピローマウィルス(HPV)に持続感染し、数年～十数年ののちに前がん病変の状態を経て発症すると考えられています。

HPVの子宮頸部への感染はほとんどが性的接触に因るもので、ウィルスに感染する前の感染防止が重要であり、H25年4月より子宮頸がん予防ワクチンの定期接種が開始されました。

しかし、H25年6月14日、厚生労働省の会議において同ワクチンとの因果関係を否定できない持続的な疼痛がワクチン接種後に特異的に見られたことから、この副作用の発生頻度等がより明かになり適切な情報提供ができるようになるまで、同ワクチンの定期接種を積極的に推奨すべきではないとされました。しかし、定期接種を中止するものではありません。

子宮頸がんワクチン 日本では
サーバリックス(2価HPVワクチン)

ガーダシル(4価HPVワクチン)の2種類があります。

定期接種対象者

関連する学会では、11～14歳の女児での接種が推奨されています。次が15～45歳の女性(各自治体により控除対象年齢が異なります)同種ワクチンを3回接種 筋肉注射する。

子宮頸がんワクチンの副作用

筋肉注射をするため、痛み、不安、緊張のため血管迷走神経反射による失神があらわれる事があるので、接種後30分程度背もたれがある椅子に座わってもらい様子をみる必要があります。

H23年12月～H24年3月までに報告された副作用報告のうち、ワクチンに関連有りとされた副作用は、16名(0.009%)とされています。(4価HPVワクチン予防接種に関するQ&A集)

今後、適切な情報が提供され、子宮頸がんを予防するために安心してワクチン接種を受ける事ができるようになる事を願っています。

尚、当院では現在、厚生労働省より確実な情報が提供されるまで、HPVワクチンの接種を見合わせています。

今
月
の
聖
句

戒めは灯、教えは光

旧約聖書 箴言 6章 23節



チャプレン 安部 勉

さて、人からの忠告や教えを皆さんは素直に受け止められますか？

「こうしたらいいよ」って助言だったらきっと「そうだなあ」と思えるでしょう。「気づかせてくれた」という思いに「ありがとう」との気持ちも沸いてきます。でも、「そんなことはわかっています！」と思うことを「なぜ、できないの!」とか「こうしなさい!」と指摘されると「ありがとう!」という思いではなく「わかっているけどできないから困っているんだよ!」と言い返したくなるかもしれません。

「あの時、あの人のあの言葉は今の自分のために本当によかった」って思うような忠告や教えはきっと何時までも心に残るでしょう。そして自分の成長のためだったのだ、と心から感謝して受け入れることができます。でも、言われたその時は「な

ぜ」とか「どうして」との思いや腹立たしい思いしか感じないこともあるでしょう。

単に「怒られること」はいやなもの。でも「叱られた」ことの意味を理解できたならばそれは自分にとって糧になるでしょう。自分のために経験したことを「伝えよう」との思いを感じられればそれは希望となるでしょう。

今、自分に向けられた言葉をすぐに糧とすることは難しいこと。でも、後になってその言葉が「糧となった」と思えるもの。このような言葉のリレーが人の繋がり、成長への橋渡しになるのではないのでしょうか。

いにしへのユダヤの人の格言「戒めは灯、教えは光」。素直には受け入れられなければ青年、「その通り」と思うなら成熟した人間、そのように響きます。

ヘルシークッキング 8月

黒胡麻粥

エネルギー 184kcal タンパク質 5.4g 脂質 8.4g (1人分)



<材料 2人分>

- ・米 1/2カップ (80g)
- ・水 3.5カップ
- ・黒胡麻 30g
- ・味噌(お好みのもので)適量

<作り方>

- ① 黒胡麻を弱火でよく炒り、すり鉢に入れ、すりこ木でよくする。
- ② 鍋に洗った米と分量の水を入れ、3~4時間置く。
- ③ 火にかけ中火で煮立てる。
- ④ 煮立ったら弱火にして、蓋を少しずらして乗せ、コトコト炊く。(約20分)
- ⑤ 炊きあがったら黒胡麻を加え、さっと混ぜ合わせる。
- ⑥ 器に盛り、お好みの味噌を添える。

「八朔の日」という日をご存じでしょうか。「八」は八月、「朔」は一日を表すのですが、八朔は二百十日、二百二十日と並ぶ悪天候と恐れられた日です。その昔、この時期は稲の収穫の直前であるため、悪天候によって実りが失われないように収穫の無事を神仏に祈っていました。そのため八朔の日は田の神に豊作を祈る「田実の節句(たのみのせっく)」とも呼ばれています。やがて「田実(たのみ)」は収穫した稲穂を親しい人に贈って別の田の豊作も祈願する「頼み」の日とも呼ばれるようになり、日頃お世話になっている人に贈答する習慣が誕生しました。やがて「頼み」の日は農民だけでなく武家社会にも広がり、江戸時代には五節句の一つにも数えられた公式の祝日になりました。また、この日を境に夏バテ対策の休養として認められていた昼寝が禁止され、農民達にとっては収穫期を前に、気を

引き締める区切り日でもあったようです。この夏バテ対策の習慣となっていた昼寝の代わりに食べられたのが「黒胡麻粥」です。

「黒胡麻粥」は暑さ疲れの妙薬として室町時代からあったようですが、不飽和脂肪酸やビタミンEが豊富な胡麻は血管をしなやかにし、細胞の老化を遅らせる効果があるため、古来より不老長寿の妙薬とも言われています。胡麻は外皮が硬く、消化が悪いため消化を良くするためにしっかりとすることがポイントです。「黒胡麻粥」は味をつけずに炊き、お好みの味噌を添えていただきます。シンプルな味付けの料理ですが消化に配慮され、夏場の体力の落ちた体の栄養補給に適しています。

こんな「黒胡麻粥」ですが調理方法も簡単です。まだまだ続く夏場を乗り切るためにも一度召し上がってみてはいかがでしょうか？

報告1

リスクマネジメント研修会を終えて

1病棟 前田 小百合



6月14日(金) 17時30分からリスクマネジメントの研修会を開催しました。

最初に医療安全委員長(周防院長)よりご挨拶がありました。今、世間で話題になっている日本野球機構の「飛ぶボール」を例にしてインシデントについて話されました。はっきりと公表して隠蔽していなければあれほど大きな問題になることはなかったのではないかと…。病院中で起こる些細なことでもこれくらいなら大丈夫だろうと隠すのではなく、どんな小さなことでも挙げていき皆で考えることにより大きな事故は防げるとお話をいただきました。

私たち職員も日々インシデント報告をして、カンファレンスを開催することで大きな事故に繋がらないように努力しています。その結果が昨年度のインシデント集計報告に繋がっているのだと思います。

昨年度のインシデント件数は737件でたくさんの報告

がありました。毎年のことながらインシデントの大半が転倒・転落でいろいろな対策はとっていても起こってしまうものです。転倒・転落については職員の永遠の課題でもあるように思います。

研修会では医療安全管理者の森啓一兄から「インシデントは何故起こるのか」について講義がありました。リーゾンのスイスチーズモデルやリスクマネジメントにおける10の戦略について等わかりやすい講義でした。

医療安全に対する取り組みは、「これで終わり」ということはなく安全対策を検証しながら、より安全性を高めるためにカンファレンスと改善を繰り返し、これらを継続していくことが重要であるということが理解できたのではないかと思います。「人は誰でも間違える」だからたくさんの報告を挙げ、再発防止に努めていきたいと思っています。

報告2

ホスピス遺族会

ホスピス 河田 淳子



6月8日土曜日にホスピスの遺族会をグリーンホテルで行いました。12家族20名の遺族が参加されました。今回よりプログラムの中に絵本の朗読を新たに設け、プロジェクターで美しい絵と詩を映しながら高橋看護師の朗読に皆が静かに聴き入りました。絵本の朗読中、遺族がそれぞれに亡くなられた家族を思い出し、涙される場面や思いにふけておられる姿が印象に残りました。

語らいの時間では、遺族4名ずつのグループに分かれ、各テーブルにスタッフがファシリテーターとなり進行役を務めました。亡くなられた家族を思い出すと今も寂しい気持ちになったり悲しくなったりすると話される遺族がほとんどでした。仕事をしたり趣味を楽しむことで気持ちを紛らわせたり、家族が亡くなり一人暮らしになってしまったので、娘さん達が交代で一緒にご飯を食

べてくれるようになったと話される遺族など、家族に支えられて日々を過ごしておられる方もたくさんおられました。

家族のお話のなかで毎回口にされることは、遺族会に来られるまで亡くなられた家族のことを話したり、他の遺族の話や聴いたりする機会がなかったと話されることです。この言葉をいただき、前向きな気持ちで会場を後にされる遺族を見送ったあと、毎回遺族会をして本当に良かったと思うのと、私たちが遺族会を続けていける活力になっているのだと思います。

今回も大きなトラブルなく会を終えることができましたが、いくつかの課題が残りました。次回は11月を予定していますが、今回より更に良い会にしていけるよう努めていきたいと思っています。

報告3

基本理念の研修を終えて

居宅 川原崎 友子



毎年繰り返し基本理念の研修を受けていますが、日々の仕事の中で、常に基本理念をもとにして患者さんやご家族、各事業者さんと一緒に働く職員に接することができているだろうかと自分自身を振り返るよい機会になっていると感じています。

入社して4年目に入り、たくさんの患者さんやご家族と出会い関わらせていただく中で、いろいろな声をきかせていただくことがあります。

ヴォーリス記念病院は、この地域の方たちにとって、とてもなじみ深いものであり、ありがたいことに「ヴォーリスさんだからお願いしたいんです」と言ってくださる方や、以前に関わらせていただいた患者さんのご家族から「よくしていただいたからぜひ助けてあげて」とご紹介のお電話をくださることもあります。こういった声はい

ただけるのも基本理念の研修を行い、職員一人一人がそれを実践しているからだと思っています。私たちの病院は、単に医療を提供するだけでなく、患者さんを第一に考え、隣人愛と奉仕を実践するという目的をはたすためにそれぞれ一人一人が自覚をもち、反省と前進を繰り返し、みんなが同じ方向を向いて病む人に優しい医療を提供する病院であるということ、上から目線ではなく、同じ視点にたって思いを傾聴し寄り添い、その人にとって何が必要なのかを一緒に考え、安心感をもってもらえるよう接すること、この基本理念をもとにヴォーリスさんのおもいを引き継ぎ、「ここにきてよかった」「ここにお願ひしてよかった」と感じていただけるよう、これからも日々の業務に精進していきたいと思っています。



報告4 里モニター会を終えて

老健センター 木下 ゆい



6月29日(土)最高気温30℃と蒸し暑い中での開催となりましたが、モニター様13名がご参加して下さい、各事業体代表とスタッフ合わせて計30名の参加となりました。

議題は①リハビリセンター新棟について・②ホームページについて・③出前講座進捗状況について・④在宅部の現状(DVD上映)よりの4つの報告であり、各議題について、モニター様よりご意見、ご質問を拝聴する形となりました。

私は今回、初めてモニター会に参加させていただいたのですが、利用者様、ご家族様をはじめ様々な形でヴォーリスに携わって下さっている方々が、普段感じておられることや抱いておられる疑問を、お声として直接聞かせていただく事のできる場であるのだと知ることができました。

皆様よりいただいた貴重なご意見に基づき日々の業務を見直す事で、里全体の発展へと繋げて行くと共に、利用者様方が住み慣れた地域でいつまでも暮らす事の出来ますよう、医療、保健、福祉の里としてシームレス(切れ目の無い)ケアの提供を目指して行きたいと思っております。

また、今回のホームページのリニューアルにより、各事業体(病院・老健・在宅・ケアハウス)また、関連事業体までページが見やすくなりましたので、是非アクセスして頂き、お気づきの点やご質問がございましたらスタッフまでお声掛けをお願い致します。

ご参加頂きましたモニター様、心からの感謝を思う1日でした。

報告5 里のクリーン大作戦2013

里活性化委員会 酒井 英志



7月10日(水)、里のクリーン大作戦を実施致しました。梅雨明けした猛暑のなか、約100名の職員がたくさん汗を流しながら病院周辺、ケアハウス周辺を中心に草刈りや清掃作業を行いました。本当にご苦労様でした。今年度は、里活性化委員会ではクリスマス時期の里のイルミネーションを再考していくことを検討しております。皆様からの良きアドバイスよろしくお願ひします。



報告6 ボランティアニュースより お話し相手ボランティアで学んだこと

「はじめまして、お話し相手ボランティアのI.Yと申します」と挨拶して、患者さんに近寄らせていただく。

お話し相手ボランティアとして活動する初めての日は、非常に緊張していたのを今でも思い出します。

その日から早、6ヶ月が過ぎました。現在では月2回、1~2名の方のお話を聴かせていただいています。

患者さんから優しい思いやりのある言葉を聴かせていただいたり、思いきり二人で笑ったり、また、「ありがとう また来てくださいね、待っています」と帰り際にかけくださる言葉や、笑顔で手を振って見送ってくださった患者さんに支えられながら活動しています。

「あっ、今日も来てよかった。お会いできて本当によかった」と思い、また次のお会いできる日を楽しみながら活動を続けている昨今です。

実践を通じ学ばせていただいたことは、色々ありました。相手の立場に立ち、お話を聴かせていただく時には「人」が「人」の縁のもつ不思議さに気づかされることがよくありました。

お話し相手ボランティア活動の場で、今までまったくお会いした事のない患者さんとの新しい出会いに感謝すると共に、この場がお互いにとってかけがえのないただ一度の時と思い、この「貴重な時間を大切にしたい」と自分に言い聞かせています。

また、相手の言う事をすべて受け入れながら、その時自分の心に余裕がないと話の内容が上滑りして、深まっていけない事にも気付かさせていただきました。今後も患者さんが他の人に話を聴いてもらうことで少しでも気持ちが楽になられ、ボランティアを行う者も充実が得られるような活動にまで深めていきたいと考えています。

報告7 第203回 ミュージックタイム

さる2013年6月22日、「第203回 ミュージックタイム」を3病棟で開催いたしました。

今回は京都から「真依子さん」をお迎えして琴とギター、そして歌を皆さんで楽しみました。

ご存じの方もおられるかもしれませんが、プロのシンガーソングライター。

テレビでも彼女の歌が流れます。心にしみる歌詞、その故郷の景色が目の前に広がるような歌声でした。



適切な予防法で防げる熱中症・脱水症。大切なのは「水分補給」

「熱中症は死に直面した緊急事態」と環境省は警告しています。しかしそれは適切な予防法を知っていれば、防ぐことができます。

熱中症の予防法については、次の3点に大別できます。

1、屋外・屋内とも暑さを避ける

暑さを避けるためには、屋外では日傘や帽子を着用して、できるだけ日陰で行動するといった配慮が大切です。

屋内では扇風機やエアコンを使って、こまめに室温調整する必要があります。

2、体調に合わせた取り組み

体調に合わせた取り組みは、通気性のよい吸湿・速乾の衣服着用や、保冷剤・氷・冷たいタオルなどによる体の冷却など、個人の快適さに合わせて対応する。

「ちょっと体調がおかしいな？」と思ったら、すぐに体温測定する習慣づけもお勧めします。

3、適切な水分・塩分の補給

そして何より大切なのが、適切な水分と塩分を補給することです。

これらがちゃんと行われていないと、熱中症・脱水症のリスクはどんどん高まってしまいます。

特に高齢者は、こまめな水分補給を心がけて下さい。それというのも高齢者の場合、

① のどが渴いていても感覚機能の低下によって、それを感じにくくなっています。本人が自覚せぬまま、水分が慢性的に欠乏しているというケースは思いのほか多いです。

② またトイレが近くなることや失禁などを恐れ、水分摂取を控える、我慢しているお年寄りがありますが、これも良くないです。

熱中症に至らなくても、**脱水症**の危険性が高まるばかりです。

1日に必要な水分量は、一般成人の場合で2・5リットルと言われます。

高齢者の場合はもう少し控えめにみてもいいですが、それでも毎日、2リットルほどの水分は摂取しなければなりません。

じっとしていても、皮膚や呼吸から不感蒸泄によって、水分は失われていきます。

私たちの体の半分以上は水分でできています。

そしてその水分がわずか1%減っただけで激しい渴きをおぼえ、2%になると脱水の症状があらわれてきます。

体の水分の重要性をより強く意識して、毎日の水分摂取量を再チェックして下さい。

【新規採用】

7月16日	伊藤 和代 (看護部)
7月22日	小松 知史 (事務部)
8月1日	井尾 光佑 (事務部)
8月1日	寺嶋 孝代 (看護部)
8月19日	前田 清治 (看護部)



働く仲間を募集しています！

★看護師・訪問看護師
介護福祉士

“ケアの喜びを
一緒に感じ
ませんか。”



詳細はお問い合わせ下さい。
TEL 0748-32-5211
(担当：澤谷)

お知らせ

▶糖尿病及び生活習慣病教室のお知らせ

シリーズで月に一度、木曜日に糖尿病、生活習慣病に関して、実際の食事をご用意し、病気の知識や治療法に関する教室を開きます。詳しくは管理栄養士か外来看護師あるいは担当医師にお聞きください。

日 時 8月22日(木)12:00～13:30

場 所 新館研修室(病院内)

講 師 理学療法士

主治医の指示のもとに参加できますが、あらかじめお申し込みが必要です。



近江八幡市介護予防拠点事業

ヴォーリス介護予防教室のご案内(平成25年度前期)

回	日 程	内 容	担 当 ・ 講 師
3	9月26日(木) 14:00～16:00	「折り紙を楽しもう PART V」	ヴォーリス老健センター 施設長 鈴木輝康

- ①対象者 おおむね65歳以上の方 定員:30名
②場 所 アンドリュース記念館(旧YMCA会館)
近江八幡市為心町中31番地(近江八幡教会の隣)
③参加費 無料

- ④申し込み 9月24日(火)までに往復ハガキで
①住所 ②氏名 ③年齢 ④連絡先電話を記入の上、
下記の係りまでお申し込み下さい。
〒523-0806 近江八幡市北之庄町492
ヴォーリス記念病院内 介護予防教室係 まで
単月の申し込みも受け付けます。
(申し込み締め切り 3回目9/24)
お問い合わせは、ヴォーリス記念病院内
ホームヘルプステーション 担当 生駒
(Tel 32-7130 Fax 36-5458)まで

メディカルフィットネスセンター

会員募集

あなたの健康づくりをサポート

安心して楽しく運動して頂けるよう、
からだの状態を評価し、お一人お一人
の運動メニューを提供致します。

受付時間 9:30～17:00

利用時間 月・水・木・土 9:30～17:00

火・金 9:30～20:00

定休日 日曜日・その他(年末年始など)

近江八幡市鷹飼町571

平和堂近江八幡店5階内

TEL 0748-32-5540

地域連携課

介護・入院・施設の入所等で、
お困りのことがありましたら、お気軽に
お越しください。
正面玄関入って
左側です。



“患者サポート支援窓口”の設置

外来診療・入院生活、治
療等についてお困りのこと
がございましたら
患者サポート支援窓口
(担当 塚本・岡田・加藤)
までご連絡下さい。